

障害の理解

	EA2195	担当教員	単位数	履修方法	配当学年
			1単位	R	1年以上
科目コード	EA2195	担当教員	千葉 伸彦(上) / 三浦 剛(下)		



※2009年度以降入学者に対して開設されている科目です。2008年度以前に入学した方は、履修することはできません。

※この科目は2018年度まで開講します。レポート提出、科目修了試験受験は2018年度まで可能です。

※履修登録は2017年11月20日まで可能です。

■科目の内容

本科目では、障害のある人の身体機能および心理に関する基礎的知識、他職種との連携の必要性について理解することにより、障害のある人の生活を支援する際の基本的な考え方を習得することを学習のねらいとしています。障害のある人の生活状態とその家族を含めた周囲の環境を理解するために、「障害」とはなにか、現在の社会環境を把握した上で、障害の基礎的知識や障害のある人のニーズについて学習します。

■到達目標

- 1) 障がいのある人の身体機能および心理に関する基礎的知識を理解し、説明することができる。
- 2) 「障がい」の概念とICF、障がい者福祉の基本的な考え方について理解し、説明することができる。
- 3) 様々な職種との連携の必要性について理解し、説明することができる。
- 4) 障がいのある人の生活の現状、障がいのある人および家族のニーズを述べることができる。

■教科書

介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座13 障害の理解 第4版』中央法規出版、2015年（第4版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2015年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	障害の基礎的理解	障害のある人の思いや実態を理解し、障害の概念、障害のある人を取り巻く環境について理解する。 キーワード：障害の概念、障害の法的定義、国際障害分類、国際生活機能分類、障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害福祉に関する法律、発達障害者支援法、障害者総合支援法 など	障害のある人の生活状況や当事者の声を理解し、実際の暮らしについて理解しましょう。国際障害分類から国際生活機能分類における変遷の過程と背景について理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	障害福祉の基本理念とその実態	障害者福祉の基本理念となるノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについて理解する。 キーワード：ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン など	基本理念がどのような社会背景や歴史の過程で生まれたものであるか理解しましょう。基本理念が障害のある人の地域生活においてどのように反映されているか理解しましょう。
3	障害の医学的側面の基礎的知識 (身体障害の基礎的理解)	視覚の構造と機能、聴覚・言語障害の状態、重複障害の状態、肢体不自由の原因や状態について理解する。 キーワード：視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害、肢体不自由障害 など	それぞれの障害の状態像や原因となる疾患などについて理解しましょう。障害が日常生活や社会生活にどのような影響を与えるのかについて考えてみましょう。
4	身体障害に伴う機能の変化と日常生活への影響	障害の心理的影響、障害の受容、支援する際にどのような点に注意するのかについて理解する。 キーワード：障害のある人の心理状態、障害受容過程 など	日常生活でどのような不自由があるのか、生活状況について理解しましょう。障害の受容の過程やその際に支援者としてどのようなことが大切か考えてみましょう。
5	障害の医学的側面の基礎的知識(精神障害の基礎的理解)	精神障害の定義、精神疾患およびその症状について理解する。 キーワード：精神障害、精神疾患 など	障害がもたらす、さまざまなつらさについて考えてみましょう。障害によって生活リズムが乱れるなどの身体的変調があることを理解しましょう。
6	障害の医学的側面の基礎的知識(知的・発達障害の基礎的理解)	知的障害および発達障害の定義、特徴について理解する。当事者の生活とそのニーズについて理解する。 キーワード：知的障害、発達障害、高次脳機能障害、重症心身障害 など	地域生活の状況と課題について考えてみましょう。当事者の社会参加と自立に関するニーズを整理し、適切な支援のあり方について理解しましょう。
7	精神・知的・発達障害に伴う機能の変化と日常生活への影響	当事者のニーズについて理解する。当事者の能力を活かし、エンパワメントする支援のあり方について理解しましょう。 キーワード：地域生活、社会参加、自立 など	障害が日常生活や社会生活にどのような影響を与えるのかについて考えてみましょう。日常生活でどのような不自由があるのか、生活状況について理解しましょう。
8	障害の医学的側面の基礎的知識(内部障害・難病の基礎的理解)	心臓・腎臓・呼吸・膀胱・直腸・肝臓などの障害の状態像とその原因について理解する。難病の定義、疾患の特徴について理解する。 キーワード：内部障害、難病 など	一見、わかりにくい見えにくい障害のある人の生活のしづらさについて考えましょう。多様な生活上のニーズについて理解しましょう。
9	内部障害・難病に伴う機能の変化と日常生活への影響	障害の心理的影響、障害の受容、支援する際にどのような点に注意するのかについて理解する。 キーワード：心理状況、心理的变化(キューブラー-ロス)、チームケア	障害が日常生活や社会生活にどのような影響を与えるのかについて考えてみましょう。日常生活でどのような不自由があるのか、生活状況について理解しましょう。
10	障害のある人の心理的理解	障害のある人の自己決定、エンパワメント、権利擁護について理解する。 キーワード：自己決定、エンパワメント、権利擁護、生活ニーズ	なぜ自己決定が大切であると言われるのか、その理由について考えてみましょう。障害のある人がどのようなニーズを抱え、どのような自己実現を望んでいるのかについて理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	連携と協働① (地域におけるサポート体制)	障害のある人の周囲にある社会資源について理解する。制度やサービスについて理解する。 キーワード：社会資源の利用と開発、行政・関係機関の連携、フォーマルネットワーク、インフォーマルネットワーク など	地域に存在する社会資源について把握してみましょう。より生活が豊かになるためにどのような社会資源が必要になるか考えてみましょう。
12	連携と協働② (チームワーク、チームアプローチの意義)	個人でのアプローチとチームでのアプローチの違いについて理解する。チームアプローチの実際について理解する。 キーワード：チームワーク、チームアプローチ など	なぜチームアプローチが大切にされているのか考えてみましょう。実際にチームアプローチを進める過程で大切な視点について理解しましょう。
13	連携と協働③ (多職種の連携の必要性)	多職種との連携のあり方、それぞれの専門職の役割などについて理解する。 キーワード：保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携、各専門職の役割 など	それぞれの専門職が互いに連携する理由について考えてみましょう。どのように連携することによって地域生活が充実したものになるかについて理解しましょう。
14	家族への支援 ① (家族の障害受容過程)	家族にかかる介護負担や家族支援の重要性について理解する。障害受容の考え方について理解する。 キーワード：家族支援、障害の受容、家族の状態把握、介護負担 など	介護を担っている家族の身体的・精神的負担について考えてみましょう。家族を支援する重要性について理解しましょう。
15	家族への支援 ② (親亡き後の支援)	地域生活の継続としてレスパイトサービスが必要とされる状況や生涯にわたって一貫性のある支援を提供する重要性を理解する。 キーワード：親支援、きょうだい支援、地域支援、レスパイトサービス、地域生活の継続 など	一生涯を通じた一貫性のある支援の在り方について考えましょう。レスパイトサービスの意義やあり方について理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	国際生活機能分類 (ICF) の概要についてまとめなさい。また、ICF をふまえ障害のある人の日常生活や現行の制度における問題点について考察し、あなたの考えを述べなさい。
-------	---

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

(2015年度以前履修登録者) 2016年4月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題でも2017年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

まずはテキストを熟読しましょう。そして、課題レポートに関連する内容が理解することができたかどうか確認してみましょう。ご自分の読みやすい文献から読んでいく、基本書等の手に取りやすい書籍から読んでいくことも工夫の一つです。また新聞やニュースなど身近で取り上げられている内容は障害のある人の生活を知る参考資料になります。ノーマライゼーションやリハビリテーション等の障害者福祉の基本理念が障害者の地域生活にどのように反映されているのか、また地域生活を送っている人々の声を新聞等の記事からひろいあげていくことが障害のある人の生活状況を理解する第一歩となります。この機会に、自分自身がどの程度障害のある人の生活の実状について知っているか確認

してください。意外と理解していると思っけていても、自分自身の知らない点があることに気がつくはずでず。

何かに気がつきたときには、その現状はなぜ起こっているのか、解決するべく策はないかと考える習慣を身につけていただきたくてず。ご自身の周囲にいる障害のある方々の生活の現状や心情を聴いてみることも学びになるでず。普段気に留めていないことに視点を置き、じっくり観察してててください。

あなた自身と障害のある方の生活を見比べてみると、何か気づきがあるかもしれませんが。自分自身の障害のある人へのイメージについても再考する機会としててはいかがでず。これまで述べたことを参考にしながら、レポート課題について答えることができてるか随時確認しながら書き進めることが大切でず。

テキストに記載されている障害のある人の生活を理解し、障害のある人の地域生活において、どのようなニーズがあるか、そのニーズを満たすためにどのような取り組みが地域社会に必要なかといった基本的な事項をおさえましよう。

テキストの内容を理解していることが読み手に伝わるレポートを書くことを目標にしててください。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 出題された問題の内容についてきちんと理解できているか。
- 2) 用語について一般的な基本事項が理解されているか。
- 3) 障害のある人を取り巻く環境をふまえ、かつ、障害のある人、その家族のニーズについて理解した上で、自身の考えが述べられているか。
- 4) 記述の分量も評価対象となる。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「レポート作成力」「創造的思考力」を身につけてほしい。

■参考図書

- 1) 定藤丈弘・岡本栄一・北野誠一『自立生活の思想と展望』ミネルヴァ書房、1993年
- 2) 寺本晃久・岡部耕典・末永弘・岩橋誠治『良い支援？知的障害 / 自閉の人たちの自立生活と支援』生活書院、2008年
- 3) 内閣府『障害者白書（最新年度版）』＝内閣府ホームページよりダウンロード可
- 4) 杉本章『障害者はどう生きてきたか：戦前・戦後障害者運動史』現代書館、2008年
- 5) 10万人のグループホームを！実行委員会編『もう施設には帰らない』中央法規出版、2002年

■履修上の注意

2015年度以降入学者は、この科目を高等学校教諭一種免許状（福祉）取得に必要な「教科に関する科目」として使用することはできません。